



■ 安全管理セミナーを開催しました!

～次はあなたのレッスンかも! 事故事例による安全対策～をテーマに平成22年4月6日(火)、メルパーク東京にて、第1回安全管理セミナーを開催いたしました。当日は関東のみならず、近畿また岩手など遠方からのご参加もいただき、70名の参加者での開催となりました。

講師の荒井先生からは、安全管理の定義、テニス施設における法的責任の範囲、事故事例紹介によるケーススタディなど、非常に分かりやすいお話を伺うことが出来ました。また質疑応答では、参加者から多くの質問が寄せられ、意識の高さが窺えました。

今回のセミナーでは、事故発生によりお客様におよぶ被害、楽しく素晴らしいスポーツであるはずのテニスその後お客様の人生やコーチ、企業の在り方を左右してしまう怖さを十分に理解することで、安全管理の重要性を知ることが出来ました。

しかし、怖さを知るだけでは安全管理体制の構築は出来ません。それぞれの施設に戻り、自施設の安全体制を見直し、再構築を行っていただきたいと思えます。

安全管理体制の構築に必要なツールは、JTIAのHPからダウンロードいただけますので、ご活用いただければ幸いです。

<http://www.jtia-tennis.com/system/safety/index.html>

今回、「他地区でも安全管理セミナー開催を」とのお声もいただきました。今後、安全管理委員会では各地区事業協会単位での安全管理セミナー開催のお手伝いも考えております。

私たちの事業は、テニスを通じお客様を幸せにすることであり、安全管理はその根幹を成すもの、また危機管理であると考えております。ぜひ、ご協力をお願い申し上げます。

■ 気をつけましょう!この季節 ～湿気と暑さの季節到来です!～

1. コート状態に注意を

梅雨時はコート状態不良が増えます。

お客様はプレーを楽しみにしていますので、「これくらいは大丈夫」と仰いますが、コートが安全に使用できる状態であるかどうかの判断は、コーチ・管理者が行いましょう。

アウトドアスクールはレッスン未消化が気になりますが、冷静な判断を。

インドアでもハードコートは湿気による結露の可能性がります。コート状態はマメにチェックしましょう。

2. 天候の急変に注意

大気の状態が不安定になるこの時期、突然の豪雨や雷の発生などが考えられます。

また、光化学スモッグが発生するのもこの時期です。

これらの発生時には無理にプレーをしないようにしましょう。インターネットなどで、ピンスポットの天気予報をチェックしておくのも良いかもしれません。

3. 熱中症に注意!

暑さが厳しくなるこの時期、熱中症発症の危険性が高まります。熱中症は、暑熱環境下に長時間さらされたり、運動によって体内に熱が蓄積され、体温調整機能が維持できなくなり発症します。痙攣や軽い失神を伴う軽度な症状から、意識障害、過呼吸を伴う重度なものまで様々なパターンがあります。重度な場合、多臓器障害・不全により死亡に至る場合もある、非常に危険なものです。

・ 体温過上昇の多くは体内水分の不足によって起こります。

プレー前・中・後のマメな水分補給を心がけましょう。水分補給は電解質や塩分の含まれたスポーツドリンクが良いでしょう。

・ 日差し対策をしましょう。

アウトドアでのプレーの際は帽子を着用しましょう。

首の後ろが長時間日差しにさらされると、熱中症の危険性が高まります。キャップを後ろ前に被る、首にバンダナを巻くなどの工夫をしましょう。

・ 応急処置をしましょう。

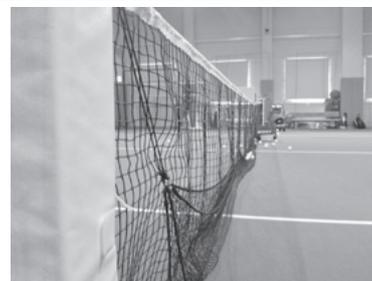
万が一、熱中症が発症したら応急処置や救急車の要請などの対応をしましょう。応急的には、「衣服を緩め安静にする」「涼しい場所で休ませ、送風や氷などでの冷却」「意識があれば水分補給」などですが、症状に応じて医療機関への搬送をしましょう。

■ 安全管理の工夫

ちょっとした工夫で事故や怪我の発生確率は下がります。

・ ボール捕球ネット

ネット部分の袋状のネットを設置することで、ネットのボールがコート上に転がるのが少なくなります。転がっているボールを踏む事故の防止策です。



・ 防球ネット脚部

安全確保のための防球ネットですが、その高さから脚の幅も結構広いもの。プレーに夢中になって脚部に躓かないよう、注意喚起のテープを巻きつけます。

